〔TPN 水和剤〕

パスポート顆粒水和剤

有効成分：TPN（化管法1種）…… 72.0%

性　　状：	淡褐色水和性細粒
毒　　性：	－
危 険 物：	－
有効年限：	5年
包　　装：	500 g ×20袋 1kg ×10袋

パスポートは株式会社エス・ディー・エス バイオテックの登録商標です。

〔特長〕

- 水中分散性、懸垂性に優れ、薬液調製が容易な顆粒水和剤である。
  薬液調製時に粉立ちが少ないので、薬剤を吸引したり、皮膚に付着することが少ない。また、フロアブル剤に比べて薬液調製時の計量が容易で、容器洗浄の煩わしさも軽減されている。
- りんごの主要病害に優れた効果を示す。
  りんごの主要病害である炭疽病、褐斑病、輪紋病、黒星病、黒点病、すす斑病、すす点病、モニリア病、斑点落葉病に優れた効果がある。褐斑病には、二次感染を強く抑制する作用により、高い防除効果を示す。
- ぶどうの休眠期処理で黒とう病、晩腐病に優れた効果を示す。
  病原菌の胞子発芽、胞子形成を阻止する。胞子の溢出を強く抑制し、第一次感染源を減らす効果が高い。
- 耐性菌が問題となった事例がない。
  有効成分TPNは、広範囲の作物、病害に使用されているが、耐性菌が問題となった事例はない。

〔適用病害と使用方法〕

作物名	適用病害名	希釈倍数（倍）	使用液量	使用時期*	本剤の使用回数*	使用方法	TPNを含む農薬の総使用回数*
もも	灰星病 果実赤点病 黒星病	1000	200～700ℓ／10a	前日	6回	散　布	6回
キウイフルーツ	果実軟腐病			60日	7回		7回
りんご	炭疽病 褐斑病 輪紋病 黒点病 すす斑病 すす点病 斑点落葉病			45日	3回		3回
	黒星病 モニリア病	1000～1500					
かき	落葉病 炭疽病 うどんこ病	1500		30日			
なし（西洋なしを除く）	黒星病	1000		収穫後～落葉終了まで			
西洋なし							
	ごま色斑点病 褐色斑点病			30日			

作物名	適用病害名	希釈倍数（倍）	使用液量	使用時期*	本剤の使用回数*	使用方法	TPNを含む農薬の総使用回数*
ぶどう	黒とう病 晩腐病	250～400	100～300ℓ／10a	休眠期	1回	散　布	3回 （休眠期：1回）
いちじく	疫病 さび病	3000	200～700ℓ／10a	収穫前日まで	2回		2回
パッションフルーツ	円斑病	1500		収穫14日前まで	3回		3回

＊収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数と、本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

⚠ 効果・薬害等の注意

- 石灰硫黄合剤との混用はさける。
- ももに使用する場合、葉に薬害を生じるおそれがあるので、夏期高温時の散布はさける。
- 有袋栽培のももに使用する場合、除袋直後の散布は果面に日焼け症状が出るおそれがあるのでさける。
- りんごに使用する場合、本剤の散布により、サビ果が多くなるおそれがあるので、開花直前から落花後20日までの間は使用をさける。
- かきに使用する場合、果実の日焼け面に褐点状の薬害を生じるおそれがあるので、高温時の使用には注意する。
- 西洋なしに使用する場合、満開期より3～4週間後の養分転換期の散布、あるいは有機リン系殺虫剤との混用散布により、葉に薬害（褐色斑）を生じることがあるので注意する。
- いちじくに使用する場合、果実及び葉に薬害が生じるおそれがあるので、果実肥大期の初期あるいは夏期高温時の散布はさける。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

⚠ 安全使用上の注意

- 粉末は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意する。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用する。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換する。作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさける。
- 夏期高温時の使用をさける。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
- 魚毒性等…水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用する。養殖池周辺での使用はさける。
  水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意する。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

〔保管〕：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管する。
化管法に対応するその他の注意事項は別表の分類5に表示してある。

農薬登録（登録番号）：エス・ディー・エス バイオテック（22158）
販売：クミアイ化学工業、住友化学